



市の花・つつじ 市の木・もくせい 市の鳥・ジュウカウ

今日の主な内容	講座「家庭から見直す商品安全」	2面
	ふっさ防災展	2面
	小学生親子体験講座「縄作り」	3面
	体育館後期スポーツ教室	3面
	としおとこ・としおんな	4面

発行/福生市 編集/総務部秘書広報課 〒197-8501 福生市本町5 ☎042-551-1511 (市役所代表)

福生市のホームページ <http://www.city.fussa.tokyo.jp/>

迎春 福生のお正月

大正月と小正月

西多摩では、年神様を迎えて祀る大正月と、農作物の豊作を願う小正月に分けられ、行われてきました。

福生市域では、一般的には11日にアワボ・ヒエボを作り、12日にもちをつき、13日にはまゆただま(米の粉で作った団子)をツゲの木などの枝にさし、これを石臼の穴に立てて座敷に飾ります。15日の朝には小豆粥を食べました。

16日には枝から団子をはずしますが、これを繭の収穫に見立てメエカキ(まゆかき)と呼んでいました。この団子はゆで直したり焼いたりして食べましたが、シミマユになるといけないといって、醤油をつけて食べることはしなかったそうです。



季節が移り変わる中で、昔から毎年繰り返し行われている年中行事の中でもお正月は1年の大きな区切りです。普段は年中行事を意識してなくても、やはり年の初めは気持ちが改まります。

福生の人びとはどんな形でお正月を迎えてきたのでしょうか。郷土資料室の企画展示「正月」では人々の思いをかいまみることができます。



△ミキノクチ宝船七つ玉(タカラブネナツダマ)
竹を裂いてつくった伝統工芸品。おみきどっくりに飾ります。



もので、魔よけになると伝えられています。

正月飾り
おそなえなどのほかにアワボ・ヒエボ、ミキノクチ、木を束ね、俵に見立てたものなどを飾りました。アワボ・ヒエボは豊作を祈って畑などに立てた

郷土資料室企画展示品



△まゆただまを飾る
(昭和60年ごろ中福生で)

暦

暦は日や月や季節の移り変わりを知らするために古くから暮らしに欠かせないものでした。それぞれの時代にさまざまな暦が趣向をこらしてつくられてきました。

いつの時代も新しい年が明けると「よい1年でありますように」と願いながら暦の表紙をめくるのではないのでしょうか。



伊勢暦
江戸時代中期以降その発行部数は、200万部に達しました。八十八夜や二十日の暦注がはじめて掲載されました。

お正月にまつわるさまざまなものごとを振り返って見ると、福生の人びとが新しい年に対して希望を持ち、心新たにした様子が伝わってきます。

皆さんにとって新しい年が心やすらぎ、いきいきと輝く年でありますように！



引き札

江戸時代以降、商店が宣伝のために配った札で、今日のチラシ広告に相当します。暦入りのものは、縁起の良い年始のあいさつに配られたようです。

ここで紹介した収蔵品を展示しています
郷土資料室年末年始企画展
「正月」開催中

掛け軸・正月にちなんだ短冊・手づくりの百人一首なども展示しています。

期間 2月1日(日)まで

休館日 月曜日(月曜日が祝日の場合は開館し、翌火曜日が休館)

時間 午前10時～午後5時

問合せ 郷土資料室 ☎530・1120



△ちりめん本のカレンダー(明治34年=1903年)「The Months of Japanese Children」(日本の子どもたちの月日)と題したもの。

少女雑誌の付録のカレンダー(昭和30年)

